

「第2回 熊本物産品販売会」ならびに「『一番搾り 熊本に乾杯』を味わう会」



6月14日、本年も「一番搾り 熊本に乾杯」発売を記念し、「第2回 熊本物産品販売会」ならびに「『一番搾り 熊本に乾杯』を味わう会」を開催しました。

2017年6月14日（キリングループ中野本社 18階「Nagomi」）

食産業復興支援

熊本地震の被災地の一日も早い復興を願い、昨年10月にキリングループ本社で行われた「熊本物産品販売会」と「『一番搾り 熊本に乾杯』を味わう会」。地震から1年2カ月が経過した6月14日、本年も「一番搾り 熊本に乾杯」発売を記念し、第2回の販売会＆味わう会を開催した。

「熊本物産品販売会」は、本社18階「Nagomi」の特設会場で11時～14時と17時～19時の2回開催。熊本各地の特産品、約25種類が並ぶ中、すでに11時～14時の販売会で完売となる商品も出るなど、好評を博した。併せて開かれた「『一番搾り 熊本に乾杯』を味わう会」には、グループの従業員300名以上が参加。熊本のおつまみと共に「一番搾り 熊本に乾杯」や、熊本県八代市のメルシャン八代工場で製造した焼酎「八代不知火蔵 白水」を使ったハイボール「阿蘇ーダ（あそーだ）」や生茶割り「阿蘇グリーン」を堪能した。

この日は、熊本県内のテレビ、新聞など報道各社の取材に加え、熊本県市の東京事務所の皆様もご招待。それぞれのご挨拶では、「復興応援 キリン絆プロジェクト」熊本支援」などを通じたキリングループの支援に対する感謝の言葉のほか、今後の継続的な支援への期待も述べられた。

※「一番搾り 熊本づくり」は福岡工場の製造ですが、熊本のお客様と共に熊本ならではの味わいをつくりあげたため、「熊本づくり」としていました。

※「一番搾り 熊本に乾杯」は福岡工場の製造です。

熊本県市出席者名簿

《熊本県》

熊本県 東京事務所 次長 三牧 芳浩 様

熊本県 東京事務所 くまもとビジネス推進課長 宮本 真由美 様

熊本県 東京事務所 総務課長 右田 省二 様

《熊本市》

熊本市 東京事務所 所長 田上 聖子 様

熊本市 東京事務所 副所長 竹原 浩朗 様

熊本市 新ホールマネジメント課 主幹 杉本 幸生 様

熊本市 観光政策課 主査 工藤 忠義 様

熊本市 観光政策課 主任主事 小川 延宏 様



笑顔で結ぶ。人を、日本を。

コメント①

麒麟株式会社 CSV 戦略部 部長 林田 昌也

熊本地震から 1 年 2 カ月が過ぎましたが、本当の意味での復興はまだこれからです。キリングループでも、「復興応援 キリン絆プロジェクト」などを通じて、地域の方々の気持ちやニーズに合わせた支援に取り組んでいます。また、ビールをはじめとする飲料を扱う会社として、「熊本の美味しい食べ物」を応援することも重要と考え、今回の販売会を企画しました。ぜひ今日は、物産品を購入して熊本を応援するだけでなく、「一番搾り 熊本に乾杯」を味わいながら、それぞれが熊本に思いを寄せてもらえればと思います。



コメント②

麒麟ビール株式会社熊本支社 支社長 麻生 芳彦

本日は、熊本県市の東京事務所の皆様にお越しいただき感謝申し上げます。また、グループ従業員の皆さんも物産品の購入、味わう会への参加ありがとうございます。さらに、全国のキリングループの有志の皆さんには、地震で大きな被害を受けた南阿蘇村でのボランティア活動にも多数参加していただきました。熊本支社でも復興支援のさまざまな取り組みを行っていますが、地震から 1 年以上が経過し、熊本も少しずつ元気を取り戻しつつあります。今日は「一番搾り 熊本に乾杯」を飲みながら、お手元の「キリン絆熊本だより」を読んで、熊本の現状を知っていただければと思います。



コメント③

キリン株式会社 取締役常務執行役員 溝内 良輔

キリングroupでは、企業活動の一環として CSV を掲げています。今回の販売会や味わう会のような場を設けることは、CSV が特定の部署や担当者だけの仕事ではなく、グループ全社を挙げて取り組むべきことだと従業員に周知する上でも意義のあるものです。また、ここで買った物産品を家族や知人に配ったり、SNS で発信したりすれば、より多くの人が「熊本をサポートしたい」との思いを抱いてくれることにもつながります。キリングroup従業員がそうやって人と人がつながって支援の輪が広がっていく「発信源」となり、社会の課題を「自分事」として考えていくことが CSV だと思います。



コメント④

熊本県 東京事務所 次長 三牧 芳浩 様

昨年の熊本地震を経て、大規模な災害の際は行政の力だけでは住民への支援が行き届かないことを痛感すると同時に、キリングroup様をはじめとする民間の柔軟な支援の重要性を改めて実感しました。熊本では、まだ約 4 万人近い方が仮設住宅やみなし仮設での暮らしを余儀なくされ、本格的な復興は道半ばです。県としても 5 年、10 年にわたる息の長い復興支援計画が必要だと考えています。そうした行政の取り組みと共に、キリングroup様をはじめとする民間の支援が今後も継続的に加われば、これ以上ない幸せです。



コメント⑤

熊本市 東京事務所 所長 田上 聖子 様

熊本地震に際しては、キリングroup様には物心両面で大変お世話になり、「感謝」の言葉しかありません。本日も、CSVの一環として、物産の販売や「一番搾り 熊本に乾杯」を従業員の皆さんで味わうことで、熊本へ思いを寄せていただきありがとうございます。今後も、熊本市ではキリングroup様をはじめとする民間の力もお借りしながら、しっかりと復興を進めて参りたいと思います。



コメント⑥

キリン株式会社 CSV 推進部 絆づくり推進室長 中澤 暢美

本日の「販売会 & 味わう会」は、私たちキリングroupの社員が、熊本地震の復興支援のために「いまできること」として企画されました。そこに、これだけ多くの従業員が賛同・参加してくれたことに感謝します。私もボランティア活動に参加するために熊本に行きましたが、復興への道はまだまだこれからだと実感しました。キリングgroupでは、今後も熊本はもとより全国の社会課題に目を向け、皆さんが明るく笑顔で暮らせるよう、CSVにより一層力を注いでいきたいと思っています。



コメント⑦

麒麟株式会社 デジタルマーケティング部 田中 圭衣

前回の「販売会 & 味わう会」に参加できなかったのが、今回は参加できて良かったです。テレビで熊本地震の状況を見て心を痛めていましたが、中でも熊本城の石垣などが崩れている映像はショックを受けました。弊社では「復興応援 麒麟絆プロジェクト」などで熊本の復興支援に取り組んでいますが、個人的にも募金をしたり、熊本県産品を購入したりして熊本を応援したいと常々思っています。今後も、こうした社内のイベントを定期的に行い、2年後、3年後も熊本を応援し続けることが大事だと考えます。



コメント⑧

麒麟株式会社 デジタルマーケティング部 寺田 智伸

出身が熊本県美里町で、現在も両親が暮らしています。また、元々メルシャンの八代工場にいたので、地震直後は両親や知人、かつての同僚の身を心配しました。幸い両親は無事でしたが、中には家が被害を受けた方もいました。さらに、帰省した際に見た益城町の光景には衝撃を受けました。麒麟グループが企業の社会的使命として、復興支援に取り組むことは当然ですが、こうした間接的なものであっても、自分自身が支援に関われることを嬉しく思います。



コメント⑨

キリン株式会社 CSV 推進部 絆づくり推進室 四居 美穂子

今回の「販売会 & 味わう会」には、前回よりも多くの従業員に参加してもらいました。参加者の増加でも分かる通り、地震から1年以上が経過しても従業員の中での関心は、まだまだ高いと思います。キリングループとしても、CSVの復興応援担当者を熊本に常駐させ、地元の方々と膝を突き合わせて、「今、何が必要か」「どのような目標を持ってやっていくのか」をしっかりと話し合いながら支援につなげています。また、熊本支社の皆さんは「チーム熊本」として、一丸で復興応援に取り組んでいます。本社員も、今回のようなイベントや熊本でのボランティア活動などを通じて、社会課題を「自分事」化するきっかけにもらえるよう、今後も働きかけていきたいと思っています。

